

# 魅力ある学校づくり協議会 (上板橋第二中・向原中) ニュース

第3号

発行日：平成 26 年 11 月 4 日  
開催日：平成 26 年 10 月 14 日  
発行：板橋区教育委員会事務局  
新しい学校づくり担当課  
学校配置調整担当課長  
電話 3579-2624

## 協議会委員の交代をお知らせします

第 3 回協議会から、是川邦子向原住宅自治会会長に代わり、吉田彰子向原住宅自治会副会長が協議会委員となりました。

## 第 2 回協議会持ち帰り事項に対する質疑応答

委員：向原中通学区域内にコーシャハイム向原（向原 3-7）が建設中ですが、マンション建設に伴う生徒数への影響はあるのでしょうか。

事務局：コーシャハイム向原第 2 期が完成しこれから入居が始まり、現在第 3 期として 300 戸強の建設計画が動き出しています。新規募集戸数やファミリータイプの戸数等について決まり次第情報提供していただけるよう要望しておりますので、詳細が分かり次第お伝えします。

委員：バス通り東側（大谷ロー丁目）は木造住宅密集地域ですが、住宅の建て替えの影響はどの程度でしょうか。

事務局：一軒ごとの建て替えによる人口変動は把握しておりません。影響について調べ、資料があれば提示いたします。

委員：板橋第二中の生徒数予測で、平成 37 年・38 年の生徒数が多い要因は何ですか。

事務局：板橋区は現在乳幼児の人口が微増傾向にあり、それが生徒数予測の増加に影響しています。

委員：向原中通学区域内の方が上板橋第二中に多く通っていることが分かりますが、こういった理由で通学しているのですか。

事務局：兄弟の通学を理由とする割合が一番多く、その他通学距離や部活動・交友関係が主な理由です。

### 通学区域外の学校に通う保護者の話

「上の子は小学校時代の友人関係や部活動（少年野球をしていたため、野球部がある上板橋第二中）を理由として、下の子は兄弟がいるため選びました。小学校保護者の間ではどこの中学校に通うかは、入学予定校変更希望制の申込期間によく話題になります。」

委員：他区の区立中学への入学（区域外就学）は学校の人気に左右されるのではないのでしょうか。区域外就学が集中する学校があるとすれば、その理由は何でしょうか。

事務局：魅力がある学校に区域外就学をするというよりも、他区の区立小学校に通い、友人関係からそのまま他区の区立中学校に進学するという割合が多いです。他区の区立小学校に通う主な理由は自宅から近い等通学の安全・利便性の割合が多いです。

委員：過去、学校が荒れていることを理由に上板橋第二中の入学者数が減り、向原中に通う生徒が多い時期があり、その逆の年もありました。保護者は学校の人気をみており、学校が何に熱心かを気にしています。保護者同士の話（口コミ）による生徒数の動きが大きいと思います。

事務局：保護者が入学の際に学校の状況をみて選んでいるという状況は理解できます。

### 学校説明会での保護者説明（平成 26 年 9 月 20 日実施）

上板橋第二中・向原中でそれぞれ平成 27 年度入学者保護者に向けて「いたばし魅力ある学校づくりプラン」の概要とスケジュール、協議会について説明を行いました。

#### 【保護者の意見】

- ・上板橋第二中：特になし
- ・向原中：①協議会では何を協議しているのか。  
②向原中の在校生からすれば、向原中で卒業したい。  
③統合が避けられないのであれば、時期を早めに決定して固定してもらえれば準備ができるので明確に示してほしい。

事務局：来年度新 1 年生の保護者としては統合時期を早く示してほしいとの思いが強いと感じました。今後、協議会で協議していきます。

#### 【質疑応答、意見】

委員：保護者説明会時に学校の統合時期について説明はしていないのですか。

事務局：平成 26 年度、平成 27 年度の 2 年で協議し、現在の計画では平成 29 年度末に統合であることを説明しています。しかし、統合時期は協議会で検討し、前倒しの可能性はゼロではないことを説明したところ、上記のような質問がでました。

委員：上板橋第二中では質問がなかったということですが、みなさん疑問には思っているかもしれません。保護者の間でも、どちらに決まるのか、統合が決まらない可能性はあるのか、といったことも話題になっています。協議をしたけれども決まらないということはあるのですか。

事務局：統合時期は協議期間に決定します。

委員：向原中の新入学者説明会に参加をし、向原中の少人数に魅力を感じて通わせたいという保護者が多いと感じました。協議会の進行によっては、前倒しして卒業までの間に統合する可能性もないわけではないと説明がありました。このため、保護者としては、卒業するまでの 3 年間同じ学校に通わせたい、区の計画に振り回されることなく、3 年間安定してこの学校にいたいという意見が出されたのです。

委員：統合時期がいつに決まるにしても、決定時期は明確にして、この期間は工事もしないと決めるべきです。

委員：あいまいなままでは、せっかく入ろうとしている新入生もバラバラになってしまうのではないかと、説明会で話を聞いて不安を感じました。

事務局：保護者が心配するのは当然だと思います。統合時期の決定についてできるだけ早く決めた方がよいと感じています。

委員：スケジュール変更の要因は設計や着工期間の問題ですか。前倒しになる期間はどのくらいでしょうか。保護者はうわさに惑わされるので、着工時期は早めに固めた方がいいと思います。

事務局：設計・建設期間が短くなることはありませんし、長くなることも建設地に文化財が埋まっている等の特別なことがない限りありません。時期が早まる要因としては、例えば統合が決まった後に極端に生徒数が減少して入学者がいないといったことが起きた場合、学校運営が成り立つのか教育委員会として協議しなければなりません。このため、前倒しの可能性はゼロではないと説明しております。しかし、保護者の気持ちを考えるとプランにのったスケジュールの方が望ましいとも感じます。

会長：次回スケジュール案の詳細を示していただき、リスクも含めてきちんと説明をして下さい。

### 学校の複合化について

現在区内には様々な公共施設（児童館・図書館・区民集会所等）があります。これらの建て替え時に建物を統合して集約することを複合化といい、区の企画部門で検討が始まっています。複合化には安全面等様々な課題もあるので、また動きがあれば協議会で報告します。

### 上板橋第二中と向原中の建築条件等の比較

	上板橋第二中	向原中
面積	敷地面積 9,925 m <sup>2</sup> 想定建築面積 約 4,000 m <sup>2</sup> 残された面積 5,925 m <sup>2</sup> 通常学級 18 学級程度で想定建築面積を建築した場合、残された面積が狭くなります。 平成 38 年度の生徒数を想定した場合、設置基準（※）よりも運動場面積が不足する可能性があります。	敷地面積 12,259 m <sup>2</sup> 想定建築面積 約 4,000 m <sup>2</sup> 残された面積 8,259 m <sup>2</sup> 通常学級 18 学級程度で想定建築面積を建築した場合でも、残された面積が上板橋第二中と比べて広く取れます。 平成 38 年度の生徒数を想定した場合も、校舎・運動場面積は設置基準（※）を満たすと考えられます。
の影響	大規模建築物等指導要綱により自主管理歩道や緑化面積を取った場合、さらに校庭面積が狭くなります。	大規模建築物等指導要綱により自主管理歩道や緑化面積を取った場合、上板橋第二中に比べ、校庭面積が広く取れます。
教室配置	校庭面積をとるために校舎敷地面積を小さくする必要があるため、教室等が分散する可能性があります。	敷地面積が上板橋第二中に比べ広いため、教室配置についての制約が少なくなります。
高低差	学校を取り囲む土地と学校敷地に高低差がないため、道路後退等による壁の築造がありません。 道路から学校敷地に入るためのアプローチの計画が容易です。	高低差があるため道路後退等による壁の築造があります。（工事が大規模になり、工事費が高くなります）また、道路から学校敷地に入るためのアプローチ計画に工夫が必要です。（例えば、スロープを設ける、橋でつなぐ等）

（※）学校教育法第三条に基づき、平成 14 年 3 月 29 日 文部科学省が公布した基準

	上板橋第二中	向原中
日影規制	学校敷地と学校の周囲の土地に高低差がないため向原中と比べて隣地に校舎が落とす日影が大きくなり、建築計画への制限が大きくなります。	学校の周囲の土地に比べて学校敷地が低いため、上板橋第二中と同じ階数を建築した場合、隣地に落とす日影が小さくなるため、建築計画の自由度が広がります。
形状 土地の	形態（縦長）はほぼ同じですが、上板橋第二中は台形（方位は同じ）のため、校舎の計画に工夫が必要です。	形態（縦長）はほぼ同じですが、向原中はほぼ長方形（方位は同じ）のため、校舎の計画がたてやすいです。
階数 建築可能	4階まで可能です。	周囲の土地の高さとそろえて建築した場合、4階まで可能です。高低差を利用した場合、5階まで可能です。

#### 【質疑応答、意見】

委員：向原中に新校を建てた場合、校庭・校舎は防災の拠点にもなりますが、現在のままの校舎と校庭に段差がある構造では、怪我をされた方やお年寄りへの負担があります。防災面も考えた設計が必要だと思います。また、校庭と校舎の入り口が同じ高さの設計はできるのですか。

事務局：現在のような校庭・校舎に高低差をつける造りがよければ可能ですし、校庭と校舎の入り口の高さを揃えることも可能です。校舎入口と校庭に高低差があっても、校舎入口からエレベーターによって校庭に行き来できるような設計も考えられます。

会長：設計内容についてはこれからですので、様々な選択肢があろうかと思えます。

委員：上板橋第二中に新校を建設した場合、赤塚第二中のように地下階を作ることは可能でしょうか。

事務局：赤塚第二中の場合は道路との高低差を利用した造りとなっており、校舎は総地下というわけではありません。構造上地下階の設計は可能です。

#### 次回予定

平成 26 年 11 月 10 日（月）午後 6 時 30 分から午後 8 時まで

場所：上板橋第二中学校 ※月に 1 回程度開催する予定です。

協議会は原則傍聴できます。詳しくは下記までお問い合わせください。

#### 協議内容予定

- 1 上板橋第二中・向原中の平成 27 年度入学予定校変更希望制結果について
- 2 校地・校名について
- 3 詳細スケジュールについて
- 4 埋蔵文化財について

発行元 板橋区教育委員会事務局 新しい学校づくり担当課 適正配置第一グループ

電話 3579-2624 FAX 3579-4214

※魅力ある学校づくり協議会（上板橋第二中・向原中）は区ホームページからご覧いただけます。

[http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c\\_kurashi/063/063153.html](http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_kurashi/063/063153.html)